



令和5年7月31日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（7月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和5年7月分）

1. B-JET 修了生が日向市でバングラデシュ紹介ブースを出店
2. 諸塚中学校生徒と日本語を学ぶバングラデシュ ICT 人材がオンラインで交流
3. 文部科学省大臣官房会計課長が宮崎大学を視察
4. 看護学研究科進学説明会を開催
5. 医学部附属病院のより良い運営に多大な貢献～ボランティア従事者に感謝状を贈呈～
6. 門川町内の全小学校におさかな下敷きを贈呈いたしました！
7. チェコ共和国編からアルゼンチン編まで
～ 世界の野球事情（2023 年前期）8 講座が終了 ～
8. ようこそ鹿児島県立志布志高校 P T A の皆様～ 学生自治会長が保護者と意見交換 ～
9. 特定サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式を実施
10. 『第 4 弾：2023 年 7 月号』全国紙朝刊一面にある広告を教育学部永吉准教授が監修
11. 1・2 年次から仕事観と向き合う ～ キャリア クロストークを開催 ～
12. 日本とインドの更なる交流強化に向けて ～ 駐日インド大使が宮崎大学を訪問 ～
13. 2 年生が教育実習での学びを 1 年生へ伝える～ 第 3 回ひなた教師セミナーを実施 ～
14. イオンモール宮崎の夏の館内シーズン装飾に農学部深見教授が協力
15. みやざき未来研究所 第 4 回「大企業のスタートアップ編」を実施
16. 牛の顔認証個体識別を起点とする家畜防疫と飼養衛生管理対策の DX 化に着手
17. 宮崎県内の高校教育の更なる充実に向けて ～ 宮崎大宮高校と連携協定を締結 ～
18. 次の 100 年を見据えて ～ 宮崎大学農学部同窓会が 200 万円を寄附 ～
19. 高校生が大学の実際の講義を見学 ～ ようこそ宮崎県立本庄高校 1 年生の皆さん ～
20. 高校生が実習船で太平洋を渡って宮崎大学へ
～ようこそ高知県立四万十高校の皆さん～
21. 宮崎南高校の生徒にエンジニアとしての魅力を紹介
～ 「ミヤダイ工学塾」×「おはなシゴト。」 ～
22. 4 名に名誉教授の称号を授与

1. B-JET 修了生が日向市で Bangladesh 紹介ブースを出店

令和5年6月10日(土)・11日(日)、宮崎県日向市で開催された「ほしまがーデンマルシェ」に、宮崎の企業に就職したB-JET(※1)の修了生の4名が Bangladesh 紹介ブースを出店。両日ともあいにくの雨天となりましたが、修了生の関係者や同僚を含む100名以上がブースを訪れ、サリーの着付け体験や、ベンガル語で来場者の名前を書くサービスなど、Bangladesh を体感できる場となりました。



門川のIT企業で働くB-JET修了生のサデカさんは「今回は初めての経験だったがとても楽しかった。Bangladesh のことを紹介することは、日本語の勉強にもなったし、自分の文化を振り返ることもできた。それに、会社の同僚がたくさん来てくれたことがとても嬉しかった」と話していました。

主催者からも「異文化体験ができる空間がほしかった」、「また、当日一番にぎわっていたブースのひとつでもあるので、また次回も参加してほしい」と期待の声が上がっており、B-JET 修了生が来日・就職後に、地域で国際理解の促進に貢献できることが示されました。

※1 B-JET(ビージェット): 日本で働くことを希望する Bangladesh の若い高度ICT技術者に日本語教育やビジネスマナーなどを提供する事業。2017-2020年にJICA事業として実施され、宮崎への就業支援は「宮崎-Bangladesh・モデル」と呼ばれました。2021年からは、協力機関であった宮崎大学の履修証明プログラム「B-JET(外国人ICT技術者育成プログラム)」として、宮崎市、企業と連携して実施されています。

2. 諸塚中学校生徒と日本語を学ぶ Bangladesh ICT 人材がオンラインで交流

令和5年6月13日(火)、宮崎大学履修証明プログラム「外国人ICT技術者人材育成プログラム:B-JET」の一環で、Bangladesh で日本語を学ぶ「Basic Course」の研修生(12期生)と宮崎県諸塚村立諸塚中学校の第2・第3学年生徒19名がオンラインで交流する「B-JET CAFE with 諸塚中学校」が諸塚中学校の「国際理解教育」の一環として実施されました。



まず、交流に向けた事前授業として、5月31日(水)にはB-JETの日本語教師が当該中学校を訪ねて全校生徒30名へ「Bangladesh の紹介」を行い、6月6日(火)にも日

本語教師と中学校教諭が合同でオンライン交流のためICTスキル講座を実施しました。

今回は、諸塚中学校の「英語の時間」を利用して実施されたもので、Bangladesh の日本語学習者と諸塚中学校の生徒たちが、お互いの国や町の有名な食べ物や観光地を英語と日本語で紹介し合う交流となりました。

会では、Bangladesh 人研修生が「諸塚はとてもきれいなところ」、「はちみつやしいたげがおいしそう」などと諸塚村への興味関心が高まった一方、諸塚中学校生徒も「Bangladesh の文化を知ることができた」「諸塚の名産や魅力的な場所を伝えられた」「zoomの機能をうまく使うことができた」と話しており、お互いの国や町の魅力を発見することや、ICTの活用ができた有意義な交流となりました。

3. 文部科学省大臣官房会計課長が宮崎大学を視察

令和5年6月15日(月)、文部科学省の高谷大臣官房会計課長と加藤総合教育政策局教育DX推進室室長補佐が宮崎大学を訪ね、鮫島学長及び理事と大学運営等についての意見交換と研究施設等の視察が行われました。



まず、各理事から本学の概要や現在進めている計画などを含めた取組について説明が行われました。その後、高谷大臣官房会計課長からは「各大学がそれぞれの強みを使って、どのように地域と連携していくかに苦慮しているところもある。しかし、大学の強みというのは、実はその地域の強みに立脚している。その特色をいかに出していくかが課題」、鮫島学長からは「地域と大学の連携を強化していくには、お互いの考えなどを通訳できる人材が必要」など活発な意見交換が行われました。

意見交換の後、本学の特色である産業動物教育研究センター、環境・エネルギー工学センターの研究施設や、体育館、附属図書館なども視察が行われ、それぞれの担当教員から研究概要や施設の利用状況等について詳細な説明がなされました。

宮崎大学では、独自の強みを発揮しながら、地域に貢献できる大学であり続けることができるように常に新しいチャレンジを進めてまいります。

4. 看護学研究科進学説明会を開催

令和5年6月22日（木）、宮崎大学医学部において、看護学研究科進学説明会を開催し、本学看護学科3～4年生に加え、遠方からも数名の方に参加いただきました。

説明会冒頭では、研究科長を務める野間口教授から、「研究者育成コースでは、数多くの修了生を輩出しており、教員や研究者はもちろん、看護師や看護管理者として活躍しています。また、実践看護者育成コースの修了生は、がん看護専門看護師や助産師として活躍しています」と紹介され、「ぜひ、大学院で学んで、今後のキャリアに生かしてほしい」と、熱のこもったエールが送られました。

その後、コース毎に分かれて看護学科教員と直接個別相談を実施。個別相談の中では、簡単な自己紹介の後、研究内容の説明や入試に関する質問、入学後の授業内容等に関する参加者からの質問に、教員が丁寧に答え、参加者からは、「大学院に入ってからの授業・研究のことが聞けたので参加して良かった」「入試の試験科目が変更になることが事前に分かって良かった」といった声が聞かれました。



5. 医学部附属病院のより良い運営に多大な貢献～ボランティア従事者に感謝状を贈呈～

令和5年6月23日（金）、宮崎大学医学部附属病院におけるボランティア活動や患者様へのサービス向上に尽力いただいた個人・団体に対して、鈴木斎王副病院長が感謝状を贈呈しました。

宮崎大学附属病院では、より良い病院環境を目指して地域の皆様によるボランティア活動を行っていただけて、今回は3名と1団体に感謝状が渡されたのち、病院関係者と懇談会が行われ、鈴木副病院長から、「患者さんの支えになるだけでなく、医師や看護師など病院スタッフの助けにもなっています。宮崎大学医学部附属病院にとって本当になくはならない存在ですので、これからもよろしく願いいたします」と謝意が述べられました。



6. 門川町内の全小学校におさかな下敷きを贈呈いたしました！

令和5年6月27日（火）、宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールドの村瀬敦宣准教授と大学院生が、門川町と宮崎大学の連携プロジェクトの一環として作成したオリジナルのおさかな下敷き「門川のおさかなコレクションシート」を、門川町内にある小学校3校（草川小学校・門川小学校・五十鈴小学校）に贈呈しました。



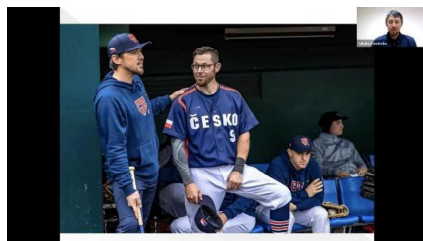
この下敷きはリパーシブルになっていて、表側には門川町内を流れる五十鈴川の淡水域でみられる魚12種類の写真と簡単な解説を掲載しており、概ねこの水域でみられる淡水魚をどなたにでも把握できるようになっています。裏返すと、門川町内の河川河口域でみられる代表的な魚16種の写真と解説が掲載されており、海水が混じるような環境でみつかることのできる魚がひと目でわかるようになっています。また、背景のイラストは宮崎大学農学部海洋生物環境学科の卒業生が在学中に描いたもので、表は門川町の西部にある西門川地域の山林と五十鈴川、里山の雰囲気表現したデザインになっています。裏の背景は五十鈴川河口付近の雰囲気表現しており、川の出口の先には、町の無人島である乙島が描かれています。

村瀬准教授は、さかなのまち門川町に多様な魚種が存在するという背景には、門川町西部の豊かな山と川の環境があると考え、より手軽に子どもたちや市民の皆様にも門川町の山・川・里の豊かさを知ってもらうためのツールとして欲しいとの思いから、研究室に所属する学生達と下敷きを制作。この下敷きは防水仕様になっていて、水辺に持っていても安心で、村瀬准教授から「環境学習やフィールドでの魚の判別に役立てつつ、門川の山と川の豊かさについて楽しんでもらうきっかけとなるアイテムになれば嬉しいです」、と言葉が添えられ、児童代表や校長先生に贈呈されました。

7. チェコ共和国編からアルゼンチン編まで

～ 世界の野球事情 (2023 年前期) 8 講座が終了 ～

令和 5 年 6 月 28 日 (水)、宮崎大学が国際協力機構 (JICA) などをはじめとする海外におけるスポーツの普及活動を進める機関と連携しながら、Zoom を利用したオンライン形式で、日本とは全く異なる世界各地の野球事情を国内外に発信する公開講座「世界の野球事情 (2023 年前期)」全 8 講座が終了しました。



本講座は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて海外渡航はもちろん、外出制限などが行われた社会情勢などを背景に、自宅にいながら気楽に世界の野球事情に触れてもらおうと、2021 年度から開始したものです。2021 年度は 20 講座、2022 年度は 15 講座と、これまでに合計 35 回を実施してきました。

2023 年度前期の第 1 回目は、ワールドベースボールクラシック (WBC) で注目を集めたチェコ共和国代表チームのコーディネーターを務めた田久保賢植氏が講師を務め、宮崎市で実施した WBC 事前合宿での裏話などを交えながら、同国の野球事情や代表選手達のバッググラウンドが詳しく紹介されたほか、WBC 本戦で日本代表の佐々木投手からデッドボールを受けた選手のことや大谷選手がチェコ代表の帽子を着用したエピソードなども紹介されました。また、ボリビア編・ベトナム編・グアテマラ編・アルゼンチン編においては、現地から発信していただき、特に中南米の国からは、時差の関係で現地時間の早朝 5 時頃から 9 時頃にかけて話していただきました。

▼ 2023 年度前期世界の野球事情

- ① チェコ共和国編編：ヨーロッパ予選を勝ち抜き WBC の舞台へ 【田久保賢植 氏】
- ② スリランカ編：50 年後を見据えて 【後田剛史郎 氏】
- ③ 西アジアカップ特別編：野球が持つ可能性 【スジーワ ウィジャヤナーヤカ 氏】
- ④ ボリビア編：南米ボリビアでの活動と野球事情 【竹林慎太郎 氏】
- ⑤ ニカラグア女子野球編：ゼロからイチへの挑戦 【阿部翔太 氏】
- ⑥ ベトナム編：5 年間の普及活動を経てベトナムの野球の現状と今後 【北堀学 氏】
- ⑦ グアテマラ編：グアテマラのリアルな野球事情 【市川修平 氏】
- ⑧ アルゼンチン編：サッカーに勝てるか、生き残れるか 【伊藤光隆 氏】

8. ようこそ鹿児島県立志布志高校 PTA の皆様 ～ 学生自治会長が保護者と意見交換 ～

令和 5 年 6 月 28 日 (水)、鹿児島県立志布志高等学校 PTA 24 名の皆様に宮崎大学を訪問していただき、板山息吹学生自治会長 (農学部森林局地環境科学科 4 年、佐賀県立三養基高等学校卒) と意見交換を行いました。



まず、板山さんから、入学当初は実家を離れて友達もいない状況で一人暮らしを始めたものの、ステイホームと言われ、思い描いた大学生活を送れなかった自身の経験を振り返りながら、これまで 3 年 3 ヶ月の宮崎大学での生活について簡単に紹介されました。その後、保護者の皆さんからの、「どんなアルバイトをしているのか?」「家賃はいくら?」「仕送りは?」「奨学金はもらっている?」「親にはどのくらいの頻度で連絡しているのか?」などの質問が出され、板山さんに丁寧に答えていただきました。

その他にも、「ブラックバイトのメールが来たりしないのか?」といった昨今の社会情勢を反映する質問や、「高校生のうちに子どもさせた方がよいことは?」など、沢山のご質問をいただき、わずか一時間ではありましたが、保護者の皆さんにとって有意義な時間となったようでした。

9. 特定サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式を実施

令和 5 年 6 月 30 日 (金)、特定サイバー防犯ボランティアの委嘱状交付式が宮崎大学にて行われ、宮崎県警サイバー防犯対策課の皆さんが立ち会う中で、宮崎県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課長の小野哲也氏が工学部の学生ボランティア 11 名 (新規 8 名、継続 3 名) に対して委嘱状を交付しました。



今回は、新規に委嘱状の交付を受けた学生のうち、7 名が女子学生ということも特徴の一つです。交付式終了後、福岡達也警部補から、社会問題となっている闇バイトについての種類・募集手口などの説明が行われたほか、詐欺サイトについても概要説明が行われました。

また、閲覧可能な状態にある偽サイトや詐欺サイトがないか、実際に、インターネット上でのパトロールを実施。怪しいと思われるサイトの URL を宮崎県警察本部安全部サイバー犯罪対策課に報告しました。

宮崎大学では、これまでも、工学部工学科情報通信工学プログラムの岡崎直宣教授や油

田健太郎准教授が宮崎県サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザーを務めてきましたが、2017年度からは、情報通信技術に係る高い知識を持つ工学部学生もサイバー防犯ボランティアの委嘱を受けるようになり、これまでにのべ64名が委嘱を受け、今回の委嘱で合計のべ75名となります。

10. 『第4弾：2023年7月号』全国紙朝刊一面にある広告を教育学部永吉准教授が監修

これは、シール・ラベル用の粘着紙・粘着フィルムや特殊紙などを手がけるリンテック株式会社さんの新聞広告を宮崎大学教育学部の永吉寛行准教授が監修し、「十二人一首」という名称で、百人一首をモチーフに、持続可能な社会の実現に向けて生み出している製品や技術を紹介する新聞広告シリーズです。

百人一首の和歌風のキャッチコピーをあしらった絵札のビジュアルで、1年間にわたり月替わりで、日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞等に掲載されることとなりますので、注視していただければ幸いです。

第4弾の和歌は、

「花の色は 移りにけりな いたづらに 我が身よにふる ながめせしに (小野小町)」を参考に行っているようで、より詳細は知りたい方は、以下URLを御確認ください。

<https://www.lintec.co.jp/dream/ad/>



11. 1・2年次から仕事観と向き合う ～ キャリア クロストークを開催 ～

令和5年7月3日(月)、宮崎大学創立330記念交流会館において、キャリアクロストークを開催し、地域資源創成学部2年生約100名が参加しました。

これは、地域資源創成学部2年生の必修科目である「キャリアプランニング(担当：桑畑夏生講師)」の一環として実施している企画です。県内の企業・団体などの経営者や若手社会人とのグループワークを交えた講義を通じて、「働くこと」と「キャリア」の関わりについて考察していくことを

目的に令和4年度から開催されています。



今回は、県内企業・団体に勤務する若手職員を中心に15名(うち地域資源創成学部卒業生8名)が集まり、学生の興味・関心に合わせて事前にグループ分けされたうえで、各学生が2つのグループに参加しながらクロストーク(座談会)を実施。大学生から寄せられる幅広い沢山の質問に対して、社会人である先輩が大学時代のことや、転職して今に至っている経験など、自身の経験を踏まえながら丁寧に学生に受け答えしていただき、学生にとって、これからのキャリアを考える上で、充実した時間となったようでした。

また、参加した社会人の方からも、「採用活動以外で現役大学生と意見交換できるとても良い機会。今の学生がどのような環境で、どのような事を考えているのか、肌で体感することができる貴重な機会となった」と高い評価をいただきました。

12. 日本とインドの更なる交流強化に向けて ～ 駐日インド大使が宮崎大学を訪問 ～

2023年7月4日(火)、ジョージ駐日インド大使(H.E. Mr. Sibi George, Ambassador of India to Japan)、在大阪・神戸インド総領事のニキレーシュ・ギリ総領事をはじめとする4名の皆様に宮崎大学を訪問いただきました。



まず、ジョージ駐日インド大使は鮫島浩宮崎大学長を表敬訪問。村上啓介国際連携担当副学長、インド人教員であるハリシユ助教(医学部)やラダ助教(医学部)なども同席するなかで、宮崎大学とインド国内の大学との連携状況や今後検討している共同研究などについて、和やかな雰囲気なかで、英語による意見交換を行いました。

その後、学生・教職員向けに「India-Japan Relationship in Indo-Pacific Region(インド太平洋地域における印日関係)」と題して、英語による講演を行い、参加した外国人留学生などの質問に丁寧に答えていただき、交流を深めてもらいました。

宮崎大学では、インド工科大学キャンパス校と2009年に大学間交流協定を締結したことを皮切りに、2023年7月現在では、インド国内の5つの大学と大学間レベルでの交流協定を締結しています。新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延以降、国境を越えた対面形式での国際交流の実現が難しくなりましたが、以前のように活発な国際交流を行い、国際色豊かなキャンパスを実現し、グローバル社会をたくましく切り開くことのできる人材育成に努めてまいります。

13. 2年生が教育実習での学びを1年生へ伝える ～ 第3回ひなた教師セミナーを実施 ～

令和5年7月5日(水)、宮崎県内で小学校教員を目指す小中一貫教育コース小学校主免専攻「宮崎県教員希望枠」の学生が参加する「ひなた教師セミナー」の第3回が行われ、1・2年生合計28名の学生が受講しました。



今回は、宮崎県教育庁教育政策課の江藤英俊指導主事を講師に迎え、「2年生が5月末に参加した教育実習について1年生に伝える」という

内容で、教育実習中に感じた教師の仕事の魅力を伝えるとともに、不安や課題にも焦点を当て、1・2年生合同のグループワークを中心に実施。2年生は教員の仕事や役割としての「魅力ややりがい」と「不安や課題」を感じた場面などを事前課題としてまとめ発表を行いました。

続いて、グループに分かれて、各グループが取り上げた「最も解決方法を探りたい不安や課題」に対して、「良い授業を作るにはどうしたらよいのか」、「子どもとの信頼関係」、「想定外のトラブルが発生した場合」、「教師の仕事量が多い！」などについて、活発な意見交換がなされました。また、このような活動を通して、理想の教師像にとらわれず、不安に感じることは当たり前であること、それをどう乗り越えていくかが大事であることを、2年生については教育実習を振り返りながら、1年生は今後の教育実習での学びの視点として、共有することができました。

セミナーの最後に、江藤指導主事から「大きな学びを得るには、目的意識を持って教育実習に臨むことです。一步一步教師に近づいていくみなさんの姿が楽しみです」と受講生に対してエールが送られました。

「ひなた教師セミナー」は、宮崎大学教育学部と宮崎県教育委員会が連携し、小中一貫教育コース小学校主免専攻「宮崎県教員希望枠」の学生を対象に令和4年度から開始された全国的にも珍しいプログラムで、今後も宮崎県教育委員会の教育政策課、義務教育課、特別支援教育課、生涯学習課、人権同和教育課など幅広い部局から協力をいただき、セミナーが行われる予定となっています。

14. イオンモール宮崎の夏の館内シーズン装飾に農学部深見教授が協力

令和5年7月5日(水)から、イオンモール宮崎の夏の館内装飾が「海」をテーマにしたものとなり、館内7カ所にサンゴをイメージしたツリーが設置されるなど、宮崎県の花やサンゴを感じることができるようになりました。



この展示は、宮崎大学農学部海洋生物環境学科でサンゴの研究などを専門とする深見裕伸教授が協力して実現したものです。それぞれのツリーには、サンゴの豆知識が書かれていて、鑑賞しながら宮崎県の花について知っていただける内容となっていますので、イオンモール宮崎に来館される際には、是非お立ち寄りいただければ幸いです。



15. みやざき未来研究所 第4回「大企業のスタートアップ編」を実施

令和5年7月14日(金)に「大企業のスタートアップ編」と題して本講座のコーディネーターである脇氏のほかに、ANAホールディングス株式会社 執行役員 未来創造室長兼新規事業開発部長 津田佳明氏をお迎えして参加者と「スタートアップ」について意見交換を行いました。



津田氏は、サポーター型マネージメントで多くのアイデアを引き出していること、提案は「熱意を持って」カタチにし、どのように紙面に出るかを想像しながらすると良いといったことなどをご自身の経験を基に具体的な例を交えながらお話いただきました。参加者からは、挑戦と次世代ビジネス、リーダーを育成する取り組み、そしてその発案を恐れずできるANA文化がとても理解できたとの感想があり、学生から宮崎旅の提案も飛び出すなど、活発に意見が交わされました。

また、宮崎市職員でグラフィックレコーダーでもある小川綾氏に講義の要点をまとめたグラフィックレコードを作成していただきました。

次回第5回は『官民連携の可能性』と題して8月10日(木)に開催を予定しており、5回目以降からの参加者も随時募集しております。

16. 牛の顔認証個体識別を起点とする家畜防疫と飼養衛生管理対策のDX化に着手

令和5年7月18日(火)、宮崎大学は、株式会社デンサン、JA宮崎経済連、宮崎県と「牛個体識別AI×防疫対策プロセス 牛個体識別AIを起点とする飼養衛生管理と防疫対策のDX化」をテーマとした4者による研究開発コンソーシアムを形成したことを記者会見し、多数の報道関係の皆様にお越しいただきました。

本研究は、生物系特定産業技術研究支援センターが実施する令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算「戦略的スマート農業技術の開発・改良」事業に採択されたもので、AIによる牛の顔認証により個体識別を可能とし、その技術を家畜防疫や飼養衛生管理といった畜産現場における重要課題の解決に向けて応用していくものです。

記者会見では、宮崎大学関係者以外にも、研究開発コンソーシアムの構成員である株式会社デンサン代表取締役社長の興侶公司氏、宮崎県農業経済協同組合連合会代表理事会長の坂下栄次氏、宮崎県農政水産部長の久保昌広氏など、4機関から約30名が出席。まず、研究代表者である関口敏准教授(農学部獣医学科)が、近隣諸国において口蹄疫等の重大な家畜伝染病の発生が続き、海外の感染症の我が国への侵入リスクも高まっている現状と、口蹄疫を経験した宮崎県から防疫先進県として取り組んでいくことの意義など、今回のプロジェクト開始に至った背景と、研究開発コンソーシアムにおいて取り組む家畜防疫と飼養衛生管理対策のDX化について説明を行いました。

続いて、椋木雅之教授(工学部工学科情報通信工学プログラム)が、実際に「牛個体識別AIアプリ」を用いたデモンストレーションを行い、使い方などを説明。牛の個体識別は依然として目視による耳標番号の確認が主流であり、高齢化する畜産農家には大きな負担となっているが、AIによる顔認証技術が実用化されれば、家畜防疫や飼養衛生管理対策に大きく貢献し、今後の畜産における生産のあり方を大きく変える可能性があることを説明しました。

宮崎大学では、2007年度に設置した農学工学総合研究科博士後期課程をはじめ、日本で初めてとなる医学と獣医学が融合した医学獣医学総合研究科(博士課程)を設置するなど、他大学に先駆けて異分野融合型の研究体制の土台を築いており、今後も県や市町村、企業や農業団体なども連携しながら、地域の産業振興に役立つ研究を進めてまいります。



17. 宮崎県内の高校教育の更なる充実に向けて ～ 宮崎大宮高校と連携協定を締結 ～

令和5年7月18日(火)、宮崎大学と宮崎県立宮崎大宮高等学校(高橋哲郎校長、以下宮崎大宮高校)は、宮崎大宮高校が主導して構築した「ひなたALネットワーク」を活用して、県内高校における更なる教育環境(共育環境)の進化を目指し、協定を締結しました。

宮崎大学では、宮崎大宮高校が進める文部科学省事業である「スーパーグローバルハイスクール事業(SGH事業、2015年度～2019年度)」や「ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業(WWL事業、2020年度～2022年度)」において、宮崎大宮高校が行う探究学習に毎年13人から20人のアドバイザー教員を配置するなど、全学的に探究学習の支援を行ってきました。これらの連携の成果の一つとして、2021年度全国高校生フォーラムでは、農学部霧村雅昭助教がアドバイザー教員を務めるグループが審査員長賞を受賞したほか、2022年度全国高校生フォーラムでは、農学部津山濯助教がアドバイザー教員を務めるグループが審査委員長特別賞を受賞しています。

また、宮崎大宮高校では、2020年に「ひなたALネットワーク」を設立し、県内の加盟する18校のハブ校として、高校間の連携強化を図り、これまで宮崎大学などと連携して培ってきた高大連携モデルを、宮崎県内の高等学校に水平展開することを目指すとともに、新たなカリキュラムの研究開発を進めてきました。

今回の協定締結は、2022年度に事業期間満了を迎えたWWL事業に関する協定の後継としての位置づけとなります。高橋哲郎校長からは、「予測困難な時代をたくましく生きていくには、探究学習が非常に重要となってくる」と述べられ、鮫島学長からは「SGHやWWLを通じたこれまでの8年間の実績を活かして、更に実のあるものを作っていく」と、今後の更なる連携強化に向けた意気込みが述べられました。



18. 次の100年を見据えて ～ 宮崎大学農学部同窓会が200万円を寄附 ～

令和5年7月20日（木）、宮崎大学農学部同窓会から農学部100周年記念事業へ200万円の寄附を受け、本学学長室で寄附目録贈呈式を実施しました。

贈呈式では、農学部同窓会の岩切文昭（いわきり ふみあき）会長から「農学部の更なる発展のための支援を目的に農学部100周年記念事業に寄附をさせていただきます」と述べられ、寄附金目録が贈呈されました。これを受けて、鮫島学長が「次の100年を見据えた農学部100周年記念事業を行うために有意義に活用させていただきます」と謝辞を述べました。

宮崎大学農学部同窓会の関係者の皆様には心より御礼申し上げます。



19. 高校生が大学の実際の講義を見学 ～ よこそ宮崎県立本庄高校1年生の皆さん ～

令和5年7月20日（木）、宮崎県立本庄高校1年生25名、教員3名の合計28名に宮崎大学を訪問していただき、宮崎大学木花キャンパスの雰囲気を体感してもらいました。

始めに、宮崎大学全体に関する概要説明を行い、続いて、実際に大学生が受講している講義を見学。大学らしい大きな階段教室の後方から、通常の講義の様子を見学していただきました。



20. 高校生が実習船で太平洋を渡って宮崎大学へ

～ よこそ高知県立四万十高校の皆さん～

令和5年7月21日（金）、高知県立四万十高等学校の生徒8名（1年生4名、2年生4名）、教員3名の合計11名に宮崎大学を訪問していただきました。

同校は、平成11年度に校名を高知県立四万十高等学校今回は、20日夕方に高知港を出港して、翌21日午前に宮崎港に寄港。21日午後から宮崎大学を訪問するプログラムで、宮崎大学に到着後、木花キャンパス構内をバスで回りながら、研究施設などについて大学職員から案内してもらったバスツアーを実施。広大な敷地と学生の多さに驚いた様子でした。

続いて、地域資源創成学部土屋有准教授から、宮崎県や四万十町の地域資源を事例に挙げながら、その魅力を最大化させるとともに、様々な地域課題を解決するために行っている地域資源創成学部の特色あるプログラムなどについて説明があり、最後に大学生2名と高校生が座談会を行い、大学生活の実情について知っていただきました。



21. 宮崎南高校の生徒にエンジニアとしての魅力を紹介

～ 「ミヤダイ工学塾」×「おはなシゴト。」～

令和5年7月22日、宮崎県立宮崎南高等学校のご協力のもと、第2回「ミヤダイ工学塾」を宮崎南高校にて開催し、同校生徒38名に参加いただきました。

この「ミヤダイ工学塾」は、高校生に工学系分野、エンジニアの魅力とそのキャリアを知ってもらうことを目的として、宮崎大学工学部長が塾長を務めています。

今回は、「デジタル企業ってどんな感じ！？ 柔軟な働き方を知ろう！」と題したテーマで、「ミヤダイ工学塾」に産業人財育成プラットフォーム（宮崎大学地域人材部門）が主催するイベントである「おはなシゴト。」がコラボする形で開催しました。（共催：宮崎県デジタル人財育成コンソーシアム）

まず、旭化成から古賀様から、エンジニアとして働くことについてご講演いただき、続いて、工学部の武田准教授が半導体の製造を含めた最先端の研究を紹介。生徒は熱心に聴講していて、エンジニアの魅力を実感していただけたようでした。



また、コラボレーション企画として、「ミヤダイ工学塾」の会場と「おはなシゴト。」の会場をオンラインでつなぎ、パネルディスカッション形式で各社の意見を聞き、それに対する会場からの質問に対して回答を時間の許す限り行い、参加者からは「参加企業の情熱が伝わった」とのコメントをいただきました。

「おはなシゴト。」とは、県内企業と学生の接点創出イベントで社会人と学生が気軽に話が出来る、宮崎大学（地域人材部門）が主催するイベントで、今回は、スパークジャパン株式会社、MANGO 株式会社、株式会社フェニックスシステム研究所、株式会社デンサンの4社にご参加いただきました。

学生は企業に対して「なぜ、この仕事を選らんだのか」「人とコミュニケーションを上手く取るにはどうすれば良いか」等、様々なことを質問が上がり、終始和やかな雰囲気の中で行われました。

22. 4名に名誉教授の称号を授与

令和5年7月24日（月）、宮崎大学創立330記念交流会館コンベンションホールにて名誉教授称号授与式を開催し、鯨島浩学長をはじめとする理事・副学長・各学部長15名が列席のもと、新たに以下4名の先生方に称号を授与させていただきました。



- ①八ツ橋 寛子（やつはし ひろこ）先生【元教育学部教授】
- ②中山 迅（なかやま はやし）先生【元大学院教育学研究科教授】
- ③近藤 千博（こんどう かずひろ）先生【元医学部附属病院教授】
- ④三澤 尚明（みさわ なおあき）先生【元産業動物防疫リサーチセンター教授】

名誉教授の称号は、本学を退職した教員のなかから、教育や研究活動・大学運営において顕著な功績が認められた方に授与するものです。鯨島学長からは「大学として名誉教授の称号を皆様方に授与できることを嬉しく思います。今後も力強く支えていただければ幸いです」と述べられました。

称号授与を受けた4名の先生方におかれましては、心より祝福申し上げます。